

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：都市計画における歴史性	
日付：11 月 1 日（土）曜日、セッション時間：16：45～18：15	
司会者名（所属）：出村嘉史（京都大学）	
討 議 内 容	セッション全体： 両発表に共通して、都市整備における歴史性をどのように捉えるかという議論が行われた。特に大沢（日本大学）の発表に因んで、古い都市施設（本議論では、鉄道廃止路線における路線跡および駅跡）を有効活用するために、様々な実践例やアイデアが会場から紹介され、活発な議論がされた。石橋（福岡大学）の発表が、歩行に関わる街路整備をテーマにしていたために、こういった都市整備の中心視点が、市民の目、さらには歩行者の視点として、議論が展開されていたように思われる。 尚、一人目の発表の予定であった発表者（西谷陽平，立命館大学）が会場に現れなかったため、急遽順番を繰り上げて発表を行い、最後のセッションであったことを考慮して、予定よりも 30 分早く閉会した。
	（55）西谷陽平（立命館大学）：観光基盤整備を中心とする都市開発計画に関する実験的研究—歴史的・風土的観光資源を有する都市を対象として— 無断欠席
	（56）石橋知也（福岡大学工学部社会デザイン工学科）：福岡市都市部における戦災復興計画と今日の街路形態に関する研究 「緑のプロムナードが計画された時点で、何らかの都市像を描いていた人はいなかったか」「現在に求められる街路のあり方とは」「駅の土地区画整理と戦災復興とは分けて考えた方がよい」「大福岡計画全体における注目した街路の位置づけは」「寄付によって街路樹が植樹された事実は押さえたか」など、多数の質問やコメントが寄せられ、一つ一つの歴史事項の背景や時代性を丁寧に読み込むことで、さらに論旨を明確にするとの展望が得られた。
	（57）大沢昌玄（日本大学理工学部土木工学科）：鉄道廃止路線における駅跡地の再活用状況 「成立過程からも町の核となるべき構造を持っている駅跡に着目して、その有効活用の方策を考察することは、町全体の活性化に関して重要な意味を持つだろう」「ただし、現状の研究段階では、駅を周辺から独立した点としてしか分析していない点で、不足ではないか」「駅の周辺の状況毎に分けて分析すべきではないか」「駅の用途変更の制限が、柔軟な転用を阻害していることはないか」「実際、有効活用はどうあるべきなのか」「都市の顔として、道の駅に転用されることに問題はないのか」など、様々なコメントや質問が寄せられ、町の住民との関わりにおいて、町として有効な活用方法について、イギリスの事例、福岡の事例などが会場から紹介され、討議された。